

IMS presentations 2026 実施報告

2026年5月12日（火）から13日（水）の2日間にわたり、岡崎コンファレンスセンター（OCC）において「IMS presentations 2026」が開催されました。本会議は、分子科学研究所の各研究グループにおける研究課題のヒアリングに加え、研究グループ間の交流を加速させることを目的として毎年開催されているもので、重要なイベントとして位置づけられています。

本年度は、研究顧問として、2025年にノーベル化学賞を受賞された北川 進先生（京都大学 理事・副学長、高等研究院特別教授）とJames M. Lisy先生（Professor Emeritus, University of Illinois Urbana-Champaign）にご出席いただきました。ノーベル賞受賞者である北川先生から直接ご評価とご助言を賜る機会を得られたことは、分子研の研究活動にとって大変貴重なものとなりました。さらに、産学連携研究アドバイザーとして、菊池 昇様（株式会社トヨタコンボン研究所 代表取締役所長）と福田 伸先生（北海道大学触媒科学研究所研究開発部門 研究支援教授）にもご出席いただき、産学双方の視点から評価をいただきました。

会議は対面開催とし、発表は英語で行われました。各PIからは、分野外の研究者にも理解しやすい研究全体のイントロダクションに加え、昨年度の成果と本年度の研究計画について発表がなされました。初日は生体分子科学および有機化学分野、2日目は物理化学および放射光の分野のPIによる発表が行われ、分子科学の幅広い研究領域を俯瞰する充実したプログラムとなりました。顧問の先生方からの鋭いご質問・ご指摘に加え、会場のPIからも多くの質問が寄せられ、分野を超えた活発な意見交換が展開されました。

また、本会議に先立つ5月11日には、James M. Lisy先生と福田 伸先生に対して、4名の助教による研究発表と山手キャンパスのツアーが実施され、若手研究者の研究内容についても直接議論いただく機会となりました。

2日目のすべての発表終了後には、分子研の研究職員のみならず、事務職員、学生、海外からのインターンシップ生も参加する懇親会が開催されました。懇親会の冒頭では、Lisy先生、菊池様、福田先生より、講評をいただきました。続いて、本年度新たに着任された研究職員および客員准教授の紹介がなされ、新メンバーを歓迎するとともに、所内外の研究者間の親睦をさらに深める機会となりました。

本会議を通じて、分子研内における研究交流が一層促進されるとともに、評価者の先生方からは多彩な研究に対する高い評価と温かい激励のお言葉、そして今後の研究展開に活かしていくべき貴重なご助言を数多くいただき、参加した研究者一同、今後の研究活動への意欲を新たにするとともに、大変有意義な2日間となりました。

（IMS presentations 2026担当教員 岡本 泰典 記）



「IMS presentations 2026」集合写真（岡崎コンファレンスセンターにて）